

平成27年度 保育所実習報告

保育所実習担当 初等教育科 小野貴美子・谷川友美・山本裕一
保育科 相浦雅子・島田知和

平成27年度の保育所実習は、保育所実習Ⅰを1年次2月に、保育所実習Ⅱを2年次8月下旬と9月上旬の2期に分けて、県内外の公立保育所・私立保育園・認定こども園にて実施した。実習に向けて、1年後期、2年前期、2年後期の3期間実習指導を行った。1年次では、実習の意義、目的、内容の理解、全国保育士会倫理綱領の読み込み、日誌の書き方を指導した。2年次では、実習で培った力を1年生の指導をすることにより自覚し、改めて実習の意義を実感し、資格を生かした専門職への意欲が高まるような指導体制を組んだ。

*

1. 実習先

○保育実習ⅠA（保育所）・・・大分県内	123件	県外	2件
初等教育科	145名	保育科	64名
○保育実習Ⅱ・・・・・・・大分県内	121件	県外	2件
初等教育科	142名	保育科	64名
2. 実習期間

○保育実習ⅠA（保育所）	：平成26年2月9日～20日
○保育実習Ⅱ	：1期 平成26年8月17日～27日
	2期 平成26年8月31日～9月10日
3. 保育所実習の意義・目的
 - ①子どもと直接かかわることにより、気持ちや心身の発達について理解する。
 - ②保育所の一員として活動することにより、保育所の役割や保育士の職務について理解する。
4. 保育所実習の様子
 - 季節も関係するとは思うが、1年次では病欠が頻発するが2年次では病欠はほとんど見られない。
 - 1年次、2年次で同じ実習先に行くので、学生の成長を認めてもらっている。
 - 学生は、0歳から6歳までの子どもたちとの生活を通して、年齢による違いを目の当たりにし、発達過程の理解の必要性を実感している。
5. 保育所実習を担当して

2年間の保育実習指導を通して見える学生の変容から、実習体験の影響を感じている。学生を持つ保育へのモチベーションをさらに高めるためには、実習先と養成校との協働体制を強化しなければならないと思う。